

# 大学時報

UNIVERSITY CURRENT REVIEW

No.391

2020

3

隔月刊



緑に包まれた静穏なキャンパスにあふれる学生の笑顔 (桃山学院教育大学)

## 特集 SDGs に向けた大学の取り組み

座談会 学生の読書実態と大学の読書啓発活動

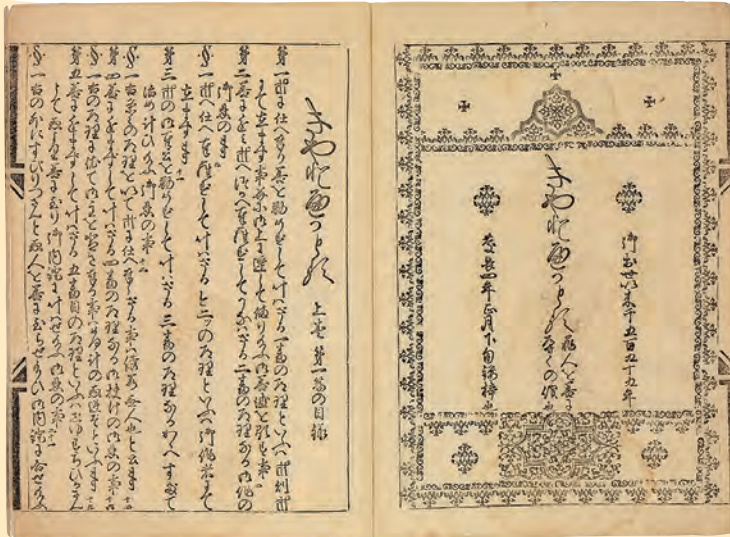
小特集 履修証明プログラム活用の現状

明日への試み 立命館大学 わが大学史の一場面 大東文化大学

加盟校の幸福度ランキングアップ 関西大学／共立女子大学

クローズアップ・インタビュー トロンボーン奏者 村田陽一さん

日本私立大学連盟



ぎやどべかどる



天理図書館全景

## やまとのふみくら「天理図書館」

天理大学附属天理図書館は、天理大学の設立から5年後の1930（昭和5）年に開館した。90年の歴史の中で多岐にわたる分野の資料が収集され、蔵書数は149万冊に上っている。

その中で特筆すべきは、カトリック東洋伝道史資料、古きりしたん文献などである。元来、これらは天理大学の建学の精神である陽気ぐらし世界建設を目指して海外へ雄飛する人材を養成するために必要な資料として収集されたのであるが、『ぎやどべかどる』（上巻）をはじめ、8種10点に上る「きりしたん版」は、日本のみならず世界文化史上の重要な文化財に数えられる。

それら以外にも数多くの国内外の稀覯書が収蔵されており、現在、『日本書紀』（乾元本）など6点が国宝に、『古事記』（道果本）など86点が重要文化財に指定されている。しかし、本館は徒らに国宝や重要文化財の類いを追い求めてきたわけではない。本館所蔵の指定品の多くは、本館の蔵書体系を踏まえた上で収集された後、整理・公開され、研究者の利用に供されることによって、それらが有する高い価値を認められている。2018（平成30年）にも『源氏物語』（池田本）が新たに重要文化財として指定された。

各々の蔵書分野が、一つの筋の通った体系を示し、横の広がりと縦の深さを持てば、結果として優品を所蔵することは意味を持つ。あるいは一つの優品の存在を有意義にするために、相互に関連する資料の収集が必須となる。その結果、いくつかの重層する分野が生まれ、その頂に国宝・重要文化財が位置するといえよう。

大和の山裾に建ち、「やまとのふみくら」とも呼ばれる天理図書館は、まさに知の宝庫であり、天理大学の宝である。

# 大学時報

No.391

2020.3

Thesaurus Universitatis だいがくのたから 天理大学

表紙・大学点描 桃山学院教育大学

巻頭言 人間力と共感共働性の育成

創立130周年を終えるに当たって

座談会 学生の読書実態と大学の読書啓発活動

島村 輝／中山浩二／横田地妙／峰田優一／(司会) 田上雅徳

特集 SDGsに向けた大学の取り組み

高等教育機関にとつてのSDGsとは

「技学」の理念のもと、SDGsへの取り組みを推進するSDGsハブ大学

SDGs 大学経営とパートナーシップ

教学トップによるプロジェクト推進

——世界の共通言語SDGs×関大の考動力——

キャンパスSDGsプロジェクト 学生主体のSDGs認知度向上の取り組み

SDGsで未来へ飛躍！～目白大学の新たな挑戦～

すいそじ 平和の巡礼者 教皇フランシスコ

小特集 履修証明プログラム活用現状

社会人経験とプログラムの循環

司法通訳養成講座の経験

梶田叡一

菊野一雄

田上雅徳

規矩大義

南口 誠

高橋香代

植田光雄

岩田寿夫

飛田 満

中田婦美子

青木聖久

後藤 昭

82 76 74 72 66 62 52 46 40 34 32 16 10

女性活躍を推進するリカレント教育

—— 関西学院大学ハッピーキャリアアッププログラムの取り組み ——

大内章子

86

CSWSキルアッププログラムについて

阿部重樹

94

教育再生実行会議における大学入試改革の基本理念

鎌田 薫

100

私の授業実践——教育現場の最前線から

古典的講義からの脱却

北原秀治

104

明日への試み

立命館大学グローバル教養学部

時代の要請に応えるリベラルアーツ教育

山下範久

110

わが大学史の一場面——日本の近代化と大学の歴史

キャンパスの変遷と学生の多様化・大東文化大学

浅沼薫奈

116

加盟校の幸福度ランキングアップ《学長コラム編》

学長コラム「芝井の目」の先に見えるもの・関西大学

今中明佳

124

「学長ブログ」で広げる大学のファン開拓の可能性・共立女子大学

川久保清

126

クローズアップ・インタビュー

トロンボーン奏者 村田陽一さんに聞く

(聞き手) 川島 葵

128

新会員代表者紹介

福岡大学

136

新学長紹介

久留米大学

136

執筆者・出席者のご紹介・137

連盟ニュース・139

年間総目次・140

編集後記・146

(カット) 熊谷有子

〈表紙写真〉

## 緑に包まれた静穏なキャンパスに あふれる学生の笑顔（桃山学院教育大学）



閑静な住宅地の一角にひろがる高台に位置する桃山学院教育大学。豊かな緑と開放感に包まれたキャンパスには、いつも学生の笑顔があふれています。煉瓦造りの落ち着いた雰囲気 of 校舎、キャンパスの中心に位置するエレノアホールは、一粒社ヴォーリズ建築事務所によるもの。ホール内のチャペルの移動祭壇の上部には木製の十字架が掲げられ、十二使徒を象徴する12本の円柱がチャペル全体を支えて、2階ギャラリーからはロジャース・パイプオルガンが荘厳な音色を奏でます。

桃山学院教育大学が掲げるのは、学力だけでなく人間的な成長を支える、キリスト教主義を基礎とした「人間教育」。大きすぎず、小さすぎないこの空間で、学生たちは人の温もりを感じながら日々学び、成長しています。

大学点描

ここで変わる。  
自分も、未来も。



桃山学院教育大学  
St. Andrew's University of Education

## 人間教育

これからの時代に求められる力を育成する「人間教育」。  
学校生活を通して、子どもたちは自分の人生を生き抜く力を身につける必要があります。  
そして、その力を磨くためには、人間的な成長(人格の完成)を  
実現することが不可欠だと考えています。



エレノアホールにて (左: 梶田 徹一学長 右: 中西正人副学長)

## 人間教育の実現をめざして

桃山学院教育大学は「人間教育」をめざしています。入学された一人ひとりの学生が、本学での生活を通じて人間として成長・成熟し、自分自身の人生を自覚した責任あるものとして生きていく力(我の世界を生きる力)をつけると同時に、有能な社会人としてやっていたりける力(我々の世界を生きる力)を身につけていってほしいと願っています。そうした土台の上で、教育者として社会的使命を果たそうとする学生の皆さんには、年若い後輩たちに対して、必要な知識や技能、思考力や問題解決力等を身につけさせるための実践的な力だけでなく、この「人間教育」への導きができる力を涵養(かんよう)していきたいと考えています。

本学の教職員は一致協力して学生の皆さんを全面的に支援し、指導して、こうした「人間教育」の実現を図ろうとしています。本学のこうした<志>をご理解頂き、一層のご協力ご支援をいただければ、と心から願っています。

学長 梶田 徹一





## 教育活動

学外の地域団体や企業とコラボレーションする企画やボランティア活動等に積極的に取り組み、  
教育者、社会人として不可欠な素養となる人間性や社会性の育成を実践。

その上で、社会や地域とこれまで以上に連携・協力し、  
社会が抱えるさまざまな課題の解決を担う社会貢献・地域連携を推進しています。



学生ボランティアによるサイバー防犯教室(松原市立天美小学校)



西日本豪雨(平成30年7月豪雨)災害募金活動



桃山学院教育大学×帝塚山学院大学×南海電鉄  
「ボケない&コケないアンチエイジング筋トレ教室NEXT」



子ども英語プログラム(槇塚幼稚園)



桃教スポーツ体験会(主催:桃教スポーツアカデミー設立準備委員会)



泉北ニュータウンで学んでつながる健康ライフセミナー



生きづらさを抱えた子どもを持つ父親の教室



児童発達支援センターの生活発表会ボランティア活動





「人間力」を磨き、  
人を支え人生を  
豊かに生きる。



## 桃教は、人間教育。



# 桃山学院教育大学

St. Andrew's University of Education

<堺キャンパス> 〒590-0114 大阪府堺市南区横塚台 4-5-1

<http://www.andrew-edu.ac.jp/>

人間教育学部 人間教育学科

- ◆ 小学校教育コース
- ◆ 幼児保育コース
- ◆ 健康・スポーツ教育コース

# 大学時報

No.391

2020.3



## 人間力と共感共働性の育成

梶田 叡一 ● 桃山学院教育大学学長

桃山学院教育大学は、前身のプール学院大学における取り組みを土台として、新しい大学教育の理想に向け、とりわけ真の教育者精神の涵養に向けて意欲的に取り組んでいる。目指すところは、一人ひとりの学生が長い人生を充実した形で生き切っていくための人間力の育成であり、それを土台に他の人々に深く関わっていく姿勢と能力を培っていくことである。その根幹をなす「タフな主体性・豊かな人間性・深い共感性」を育成する人間教育を土台に、高度な専門性の教育を追求していきたいと考えている。

# 創立130周年を終えるに当たって

菊野 一雄 ●山梨英和大学学長

## はじめに

2019年は山梨英和大学が創立130周年を迎え、甲府市も市政施行130年、またJR中央本線も開業130年を迎えるという記念すべき年であった。

130年前の1889（明治22）年には中央本線は新宿から立川までしか開通しておらず、山梨英和大学の前身、山梨英和女学校の初代校長ウイントミュート先生（カナダの女性宣教師）は立川から甲州街道をたどり、笹子峠を徒歩で越えて甲府へ入られたそうである。

山梨英和大学は1966（昭和41）年に開学した山梨英和短期大学を母体として、2002（平成14）年に4年制の単科大学に移行したので、あと2年で20周年を迎える。われわれは改めてキリスト教精神

に基づく建学の原点に立ち返るとともに、校訓である「敬神・愛人・自修」に基づき、持続可能性のある中長期計画を立案・実行し、「知」と「地」の拠点としてより魅力ある大学を目指して、新たな変革の途に挑戦したい。

まず、最も重要なことは建学の精神に係る事実として、「山梨の洋学が山梨英和学院から始まった」点にある。130年の歴史と伝統を誇る山梨英和学院は、カナダ・メソジスト教会の女性宣教師と甲府市民の有志によって設立された山梨英和女学校にその基礎がある。学びの基本は聖書と英語によっており、その目標はキリスト教の視点から、日本の近代国家の発足・発展に際して不足しがちな思想的・文化的教養や人文学（リベラルアーツ）を教育することであった。とりわけ、当時は女性が個人として「自立

し生き生きと暮らせる社会」の実現を目指していた。

現在の「山梨英和大学学則」の冒頭には、「キリスト教の信仰に基づき広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究すると共に、知的・道徳的及び応用的諸能力を展開させ、以て国際的な視点に立つより良き社会人としての人間形成を行うことを目的とする」とある。この学則と、その支えとなる建学の精神や伝統の根底には、ギリシャ・ローマまで遡ることのできるリベラルアーツの伝統が脈々と息づいていることもまた山梨英和大学の最も重要な特質である。

## 1 大学を取り巻く厳しい状況への基本視座

『交詢雑誌』（2017年10月号）に井上寿一・学習院大学学長が「斜陽産業としての大学」というタイトルの書かれているように、少子化の急進展の中で、多くの大学は厳しい状況を前にしてあえぎ苦しんでいる。山梨英和大学も私が着任した2017年には入学定員250名に対し、わずか96名の入学者しか確保できないという極めて厳しい状況に陥っていた。そこで、入学定員を155名まで下げると

もに、大学経営の立て直しと教育の充実に向けて「選択と集中」というキーワードを掲げ、入学者数を増やすために、「無駄の排除」（選択）と「コアコンピタンス（中核となる力）の精査」（集中）を目指し、新しい将来構想を立てて実行に移すことを決意した。

まず、キリスト教理念の再検討から出発して、四つのキーポイント（少子化、高齢化、国際化、地域創生化）に焦点を合わせて問題点を浮き彫りにし、改革の道を邁進することを目指した。

① 少子化対策…2018年問題を先取りし、極端に減少した入学者数を増やすために、入試広報戦略の抜本的改革を目指して、さまざまな広告媒体の積極的活用、受験生や保護者の心に響く入試広報資料の作成、さまざまなイベントの開催などを試みるとともに、教職員一体となった高校訪問や高大連携の一環としての出張講義やオープンキャンパスの充実を図った。

② 高齢化対策…高齢化が進展し、「アラハン（人生100年）時代の到来」などといわれる中で、「学び直したい」というシニア層をより積極的に受け入れるために既存のメイプルカレッジの改革・改

善および立教セカンドステージ大学との提携により、新しいリカレント教育の整備を促進する。

③ 国際化対策…より多くの留学生を迎えるために、新たに国際交流室を設置し、さまざまなイベントを通じて留学生と日本人学生の交流を深めるとともに、留学制度の充実を図っている。

④ 地域創生対策…地域と連携し、ステークホルダー（県、近隣都市、山梨経済同友会、山梨県中小企業団体中央会など）と包括的連携協定を締結し、地域との連携を深めている。具体的には、「知」と「地」の拠点大学として、地方創生推進事業

に積極的に参加し、地方貢献活動を強化している。以上の四つのキーポイントの改革をより積極的に推進するために、理事会の承認を得て、外部から「学長顧問」3名（文部科学省出身の大学理事長経験者、財界で活躍した後に大学学長補佐を務めた大学の経営・行政の専門家、高大連携のエキスパートである県立高校校長経験者）を招聘し、大学再建のためのアドバイスを受けるとともに、学内行政やカリキュラム再編の専門家を副学長として招き、計画の立案・実行を担ってもらっている。

## 2 新しい入試改革へ向けた 入試広報活動の強化

少子化対策の項で入試広報改革の概要を述べたが、改革計画を実行に移すために予算を大幅に増額し、ガイドブックの刷新、パンフレット（日本語と英語）の作成、ラッピングバス（路線バスと高速バス）の利用など、使用する広告媒体の革新に力を注いだ。また、2019年度からは資格取得者（英検2級、日商簿記検定2級、TOEIC550点以上、など）には初年度の授業料（70万円）を免除する制度を設けた。このほか、入学金（150万円）の免除制度（山梨英和大学花子特別給付奨学金や、近親者に大学卒業生や在学生がいる者を対象）も制定している。

さらに、高大連携の一環として高校への出張講義や、山梨県立図書館交流ルームでの「高校生談話室」を年6回開いている。また、山梨県内だけでなく、募集エリアを長野県や静岡県まで広げ、教職員一体となって高校訪問をしている。このようなさまざまな努力の結果、2017年度に96名であった入学者数が2018年度には139名、2019年度には

177名と、入学定員（155名）を大幅に上回る  
ことができた。

### 3 英和人育成のカリキュラム改革

山梨英和大学は入学時にアセンブリに力をいれる  
とともに、2020年度に次のような新しいカリキュ  
ラムを開始する。

① 基礎教育…三つの基礎科目（英語、日本語、I  
CTスキル）を中心に、大学の学びや社会人とし  
ての基礎的能力を総合的に涵養し、グローバルな  
英和人を育てる。新しい英語教育システムを導入  
し、基礎能力に加え、実践能力を向上させる。1  
年次からノートパソコンを貸与し、学内WiFi  
環境によって授業でパソコンを積極的に使い、I  
CT活用能力を伸ばす。2020年度には「日本  
語スキル」を新設し、書く力、読む力、考える力  
を高める。

② 専門教育…2020年度の教育方針である「専  
門性のある教養人・社会人・国際人」が確実に育  
つために、サイコロジカル・サービス（人間・心  
理）、グローバル・スタディーズ（文化・国際）、

メディア・サイエンス（情報）の三つの領域科目  
を基礎にして、次の六つのプログラムを設定し、  
学生が自由に選択できるようにしている。

A 公認心理師と臨床心理士の養成プログラム

B 司書課程プログラム

C 英語強化プログラム

D ICTプログラム

E 日本語教員養成プログラム

F 山梨地域コーディネーター養成プログラム

③ ゼミナール教育…「ゼミの英和」をキーワード  
とした、全学年必修ゼミナールによる総合的能力  
の完成を目標に、全学生が少数人数編成のゼミに所  
属して教員の指導の下に自ら学び発展させる。1  
年次「基礎ゼミナール」は、大学の学びの基礎的  
なスキルや協働的な学修や活動を、2年次「展開  
ゼミナール」は応用的なスキルの獲得や地域連携  
の視点での活動を、3年次「専門ゼミナール1・  
2」は専門分野の研究の基礎を学び、4年次「専  
門ゼミナール3・4」では、さらに専門性を高め  
つつ、卒業論文や卒業制作に取り組む予定である。  
ゼミナールは、学生と教員との交流を深めること

によって、学生の生活や進路選択を支援する「人生の道場」であると同時に「青春の劇場」であると思われる。

④ 学年暦と授業時間の変更…さらに、学修の深化と実践的活動の活発化を図るために、2020年度には授業時間を80分から95分に変更し、授業期間は前期・後期を各々14週とするセメスター制とともに、クォーター制も併用して、魅力ある多様な方法で授業を展開する。これによって時間的余裕が生まれ、長期休業期間内には、これまで以上に自主的な活動や海外での活動を行うことができ、総合的な教育効果が高まると思われる。

#### 4 グローカル化への取り組み

地域社会と共に歩んできた本学は、地域との協働を深めるため、山梨県、甲府市、笛吹市、甲州市、山梨市などと包括的連携協定を結び、さまざまな活動を行っており、講座「山梨学」を展開し、山梨の社会、文化、歴史、観光などについて総合的に学びつつ、未来の山梨がどうあるべきかについて探求している。このほか、地域を越えて姉妹校の東洋英和

女学院大学、静岡英和学院大学（人間社会学部・短期大学部）、山梨英和大学と三英和大学包括連携協定を結び、八王子セミナーハウスなどで合同ゼミナール発表会を開催している。他方、中国、韓国、米国、豪州などの大学と協定を結ぶことによって外国人留学生を増やすとともに、本学からの海外留学にも力を入れている。

#### 5 進路指導・支援活動の強化

2019年度にはリクルート社出身のプロの方を採用し、進路指導を行うとともに、3年生の集中ガイダンスやインターンシップの実施、学内合同企業説明会、保護者を交えた三者面談など多くの進路支援プログラムの実施によって、就職率は94%（2018年度）を達成し、地元定着率も約80%となっている。また、山梨英和大学大学院臨床心理学専攻課程が2005（平成17）年に臨床心理士第一種指定大学院の認定を受けて以来、山梨県内の臨床心理士の6割以上が本学大学院の修了生である。さらに、2018年度には公認心理師の養成コースも新設した。



## 6 人生100年時代の メイプルカレッジの改革

山梨英和大学メイプルカレッジは、1999（平成11）年に山梨英和大学の地域に開かれた地域貢献事業の一環として、「リカレント教育」（生涯学習としての社会人の学び直し）のニーズの高まりに先駆けて開学し、2018年に創立20周年を迎え、受講生も4000名に達し、盛大な20周年記念行事（講演会など）を開催した。なお、年間60時間以上の受講生には、「学校教育法105条」による文部科学省指定の「履修証明書」を修了式で授与している。また、学部学生・大学院生とメイプルカレッジの間における受講生の互換により、聴講者には単位を付与している。さらに、立教セカンドステージ大学と連携して交流を図るとともに、さまざまな行事を開催している。

### おわりに

山梨英和大学は山梨県で唯一のキリスト教精神に基づく大学であり、1学部（人間文化学部）と大学

院（臨床心理学専攻の修士課程）からなり、甲府市郊外の葡萄畑に囲まれた南欧風の美しい校舎をもつ小規模大学である。しかし、130年に及ぶ歴史と伝統を背景に培われてきた数々の素晴らしいブランド力を基盤として、さらに新たな改革を進めていくために、全学を挙げて情報の共有と協働を強化し、名実共に素晴らしい大学になることを目指して、真剣に取り組んでいきたいと願っている。

